

シンポジウム『数値予報～日々の生活に密着したソフトインフラ～』を 1月28日(土)に開催します

日々の天気予報や防災気象情報の基盤である「数値予報」への理解を深めるきっかけとなるよう、シンポジウム『数値予報～日々の生活に密着したソフトインフラ～』を平成 29 年 1 月 28 日(土)に開催します。

パネルディスカッションでは、防災や様々な社会経済活動における数値予報の利用の現状と可能性についてパネリストから紹介いただき、数値予報の更なる利用拡大や、今後目指すべき技術開発等について討論します。

1. 開催概要

- (1) 日時：平成 29 年 1 月 28 日(土) 13 時 00 分～16 時 00 分(開場 12 時 30 分)
- (2) 場所：星陵会館(千代田区永田町 2-16-2)
- (3) 定員：300 名(事前申込制・先着順・参加費無料)
- (4) 主催：気象庁
- (5) 後援(予定)：内閣府(防災担当)、総務省消防庁、文部科学省、和歌山県、千代田区、東京大学、(一財)気象業務支援センター、(一財)日本気象協会、株式会社日立製作所、NHK、日本テレビ放送網株式会社、電気事業連合会、富士通株式会社
- (6) 内容(予定・敬称略)：

講演

- ・ 基調講演「数値予報の過去・現在そして未来」
新野 宏(東京大学大気海洋研究所教授)
- ・ 「気象庁における数値予報の利活用と技術開発」
松村 崇行(気象庁予報部数値予報課長)

パネルディスカッション「数値予報への今後の期待」

パネリスト：

- 丹治 和博(日本気象協会防災ソリューション事業部技術統括)
- 新野 宏(東京大学大気海洋研究所教授)
- 父母 靖二(中部電力株式会社中央給電指令所長)
- 山崎 登(NHK解説主幹)
- 和歌 哲也(和歌山県危機管理監)
- 松村 崇行(気象庁予報部数値予報課長)

司会・コーディネーター：鈴江 奈々(日本テレビアナウンサー)

2. 参加方法

参加を希望される方は、平成 29 年 1 月 25 日(水)までに申し込みが必要です。
FAX または以下のページから申込みください。

<https://www.omc.co.jp/jma2017sympo/input.html>

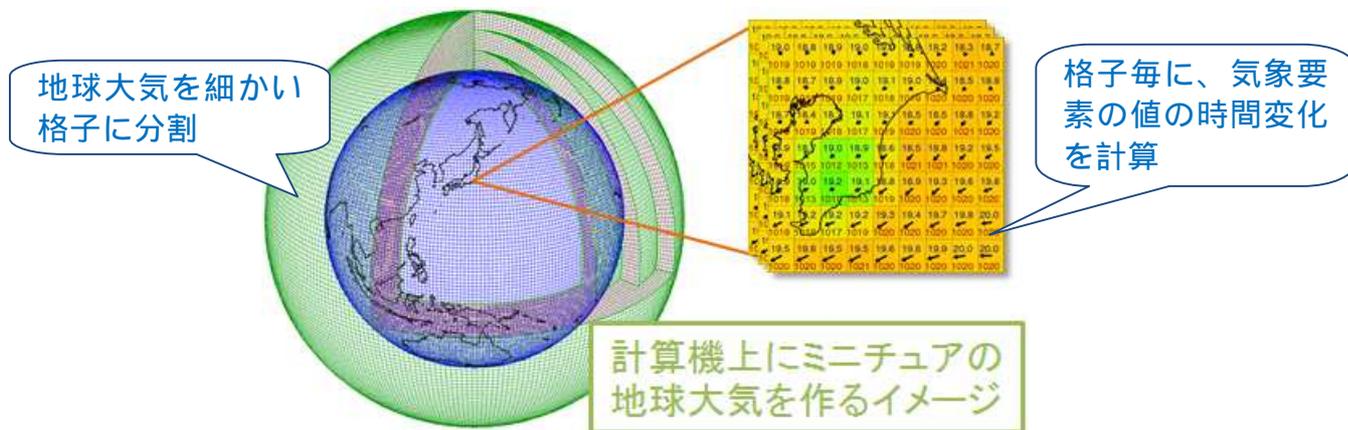
【本件に関するお問い合わせ先】

気象庁 予報部 数値予報課 永田 03-3212-8341(内線 3302)

数値予報とは

スーパーコンピュータを用いた地球大気の数値シミュレーション

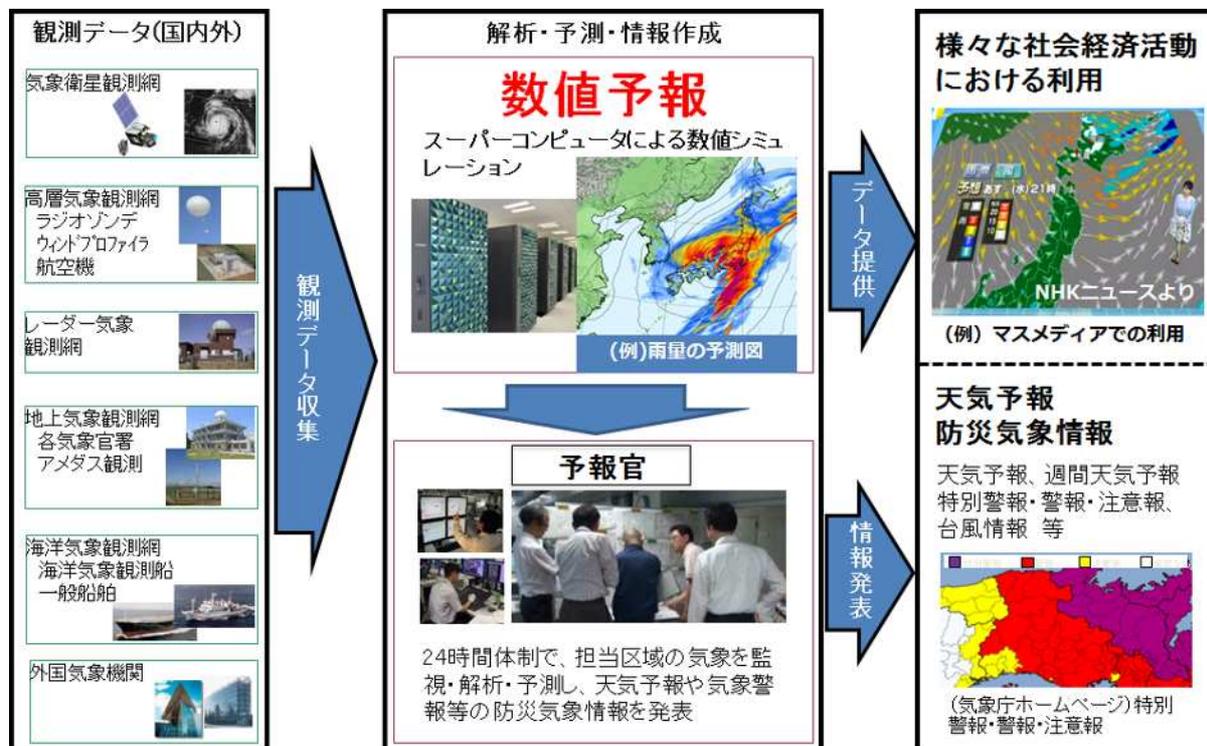
地球大気を細かい格子に分割し、それぞれにある時刻の気圧、気温、湿度、風などの気象要素の値を割り当て、物理法則に基づいてそれぞれの値の時間変化を計算します。この、複雑かつ膨大な計算を決められた時間内に行う必要があることから、高速な計算機（スーパーコンピュータ）を活用しています。



数値予報のイメージ

日々の天気予報、防災気象情報の基盤

数値予報の結果には誤差が含まれるため、予報官が実際の天気の移り変わりなどを考慮し、数値予報に必要な修正を加えた上で、天気予報や警報等の防災気象情報を発表します。これらの精度を向上させるためには、数値予報の精度を向上させることが不可欠です。また、数値予報は、様々な社会経済活動においても利用されています。



数値予報の利用（天気予報や防災気象情報ができるまで）

(参考) パンフレット「未来の天気を計算！数値予報」

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nwpleaflet/index.html>